

出演する振付家・ダンサーへの質問（木村覚より）
回答者：振子ぴじん

（1）自分の方法論を言葉にしてもらえますか。

- 上演時間を決めます。
 - 自分の体から、或いは、たまたま見かけた人やモノから動きを採集します。
 - 採集した動きから、それぞれが持っていた意図や動機が消えてその動きがあるように、自分の体で再現するときに、意識をズラす作業、稽古をします。
 - ・カウント、動きがぶれないように細部を決めます。
 - ・体の無意識の領域を意識のドットで穴埋めする様に、可能な限り細かな所まで意識してみます。
 - ・体が次の動きに移行する際のイメージを思い描き、体の部位に指令を出している踊る「私」、自我、その指令を消すようにしていき、消えた瞬間に動くような稽古をします。
 - 動きが出そろったら、順番に並べて、その時間で上演時間を埋めていき、それに満たなければ、また以上の作業を繰り返します。
 - ・並べる順番は、別々に採集した動きが、繋がり、相互干渉して見えないように配慮して並べます。
- この時の作業は、動きの意識をズラしたり、踊る「私」の指令が消えるところで動いたりするなどの、踊っている時の自分の内面の作業とほとんど同じ感覚で行っています。音響、照明等の演出上の選択も、同様で、そのように踊り、そのように作っています。
- ビデオに撮って、自分の感覚と見た目のブレがないように確認します。
 - ソロを踊る時も、他のダンサーに振りつける時も、以上の作業を振付として扱っています。

（2）作品を作る際にもっとも心がけていることは何ですか。

- 動きの意味から逃れる、ことは不可能ですが、意味をつける、或いは意味を取り出す前の一瞬の判断停止状態を作り出すこと、その観念上の一瞬に、まるで時間が存在するように見えること、そしてその時間を純粋なもの、無垢なものと感じられるようにすることです。

（3）意識している同時代の作家はいますか（ダンス／その他のジャンル）、その理由を教えてください。

- 自分の方法論に似たものを感じる、あるいは踊っている時の、その状態の理由を知りたくて、手塚夏子さんと、神村恵さんのWSに参加しました。どちらのWSも私個人に限って言えば運良く、マンツーマンであったため、予定内容を変えてもらって、それぞれの手法を体験しました。
- 手塚さんと私はお互いに自分と正反対と思っていた手法がほとんど薄膜一枚隔てて近接していることに気付き、いまではその膜すら危ういほどに私の手法も手塚さんを追うように変遷しつつあります。
- 神村さんは、動きをただ並べるといふ振付の方法論が、自分と似ていると思いました。

（4）意識している過去の作家はいますか（ダンス／その他のジャンル）、その理由を教えてください。

関係者全員参加！ダンスクリティーク

○現在も活躍されていますが、大駱駝艦で踊りを始めたころは、伊藤キムさんが僕のアイドルでした。

伊藤キムみたいに、というより伊藤キムその人になりたくて、どんな小さなイベントも欠かさず見に行っていました。

後年ラボ20のキュレーターと出演者として出会ったのは全くの偶然で、そのころには熱も冷めていましたが、踊りが格好いいで良い時分で、その時の私ならダンスクリティークなんて関係なく正面切って、私が踊りたいから踊っているだけだと言いつつ放ったことと思います。その時の自分を忘れないようにしています。

○意味について考えて踊るようになったのは、ロラン・バルトの著作に出会ってからです。

自分の身体感覚、創作欲を裏付ける倫理として、いまだに読むごとに傍線が増えていく本の多くがバルトの本です。

ただし気に入ったフレーズを前後の脈絡に関係なく都合よく捉え、誤読の限りをつくしているのも、バルトに関する質問には沈黙をもって答えます。

(5) いまのコンテンポラリー・ダンスをめぐる環境についてどう考えていますか。問題点、課題は何ですか。

○少なくとも私個人に見える範囲では、次々に新しい人の新しい作品が上演されるような形でエントロピーが増大していく背景で、コンスタントに踊りを続けている人の名前が聞こえてきている気がします。あらゆる意味で活動を継続する困難がありますが、個々の作家がダンスを続けることがシーンの発展につながると思います。またそのための知識を得ることも必要と思います。

(6) ダンスの批評の現状についてどう考えていますか。問題点、課題は何ですか。

満遍なく作品を観て欲しい

○個々人のブログだけではなく、作家による作品批評が集まる場、批評文という完成品を発表できる場があれば、読みたいし、書いてみたいとも思います。

(7) 今後の作品作りで、心がけようと考えていることはありますか。あれば、それはどんなことですか。

○作品作りでは、より自分の方法論に意識的になり、それを言語化して他人が実践できる形にしてみたいです。

外からほかのテーマを持ってくるのではなく(何かあればそれにこしたことはないです)、自分の身体感覚をもとにした個人的欲求による創作が、他者に関係できる形に反転・発展するまで継続していきたいです。

○自分一人の作業ではなく、他の作家との共同作業を積極的に企画していきます。